

令和 7年度 学校関係者評価及び改善策

(最終)

仁方中学校区 校番 1 学校名 呉市立仁方小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階をふまえ、「児童が自主的に学び、思考力・判断力・表現力を育てる」「自らを律し、他人を思いやる豊かな心を育てる」を目標に掲げている。学力や生活面の具体的な指標も明確に設定されており、全体として現状や課題をしっかりと捉えた適切な目標・指標である。 ・目標及び指標について適切に設定されている。 ・生活をよりよくするために自分の考えを深め、授業の中でもアウトプットする場を設定し、表現力を高める目標は今後にもつながると考える。 ・仁方中学校との緊密な連携のもと、学校教育目標、経営理念、中期経営目標を統一し、共通の学校教育目標「自ら学び心豊かな児童の育成」に沿って、重点項目が見直され、適切な経営目標が設定されている。 ・児童の生活の実態を十分に把握し、呉市教育振興基本計画で示されている指標との差が大きい項目について目標達成に向けて児童目線での指標が見直されている。 ・「自己実現」「豊かな心」「業務改善」を重点目標として、中期(3年間)短期(今年度)経営目標を達成するため、きめ細かく指標が設定されている。
目標達成のための方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学習力向上に向けた具体的な取組や、生活習慣・体験活動の充実を重視するなど、目標達成に向けた具体的かつ実現可能な方策が考えられている。特に今年度から始まった、市の関係機関、また、地域の自治会や消防団と、ともに行う防災訓練は児童にとって、非常にいい経験になると考えている。 ・体力の向上の目標達成のための方策として、外部指導者に指導をってもらうことも考えられる。 ・学校に行くのが楽しいと感じられ、勉強が楽しいと意欲をもって生活できるよう、保護者としても協力していく。 ・仁方小学校の学びの基盤である「スキルタイム」「スマイルタイム」「ぐんぐんノート」等を継続しつつ、昨年度の「結果の分析」及び「今後の改善策」を受け、児童の学びの主体性の引き出すための、「目標達成の方策」が具体的に設定されている。仁方小中学校が共通して「生活をよりよくするための」視点が授業で展開され、生活場面と結び付いた考える授業づくりが進められることにより、児童の思考力・判断力・表現力が高まることを期待している。 ・目標達成のための適切な方策(スキルタイム・読書タイム・スマイルタイム・ぐんぐんノート)が設定され、創意工夫が見られる。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価は、目標値に対してどれだけ達成しているかを、数値とA～Dの評価で示しており、基本的にかつ分かりやすい分析をされている。下期はC評価(体力の向上)がなくなり着実に改善に向かっていると感じた。 ・アンケート調査を利用する等、適切に分析されている。 ・分析自体は適切であるが、可能な限り数字で示してもらえば、分かりやすさと説得性が増すものとする。 ・防災意識もはぐむ取組は大変評価できる。 ・児童の自己評価はかなり甘めなものになっていると思われるが、教員が児童の現状を的確に把握した上で、9月の中間で示された改善策を踏まえた各指標の達成度とその要因が客観的にきめ細かく分析されている。また、すべての項目において成果「〇プラス」と課題等「●マイナス」が詳細に分かりやすく示されている。中間で評価の低かった体力の向上について、達成度が上昇し、継続した取組の成果が表れている。 ・夫々の目標に向かっている方策・工夫により、結果が出ている。分析も適切である。
今後の改善策(案)の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・成果と課題の明確化により、現実的かつ前向きな案が提案されている。教職員の皆様が積極的な意見交換をされている結果であると同時に、アンケートなどで子どもや保護者の声を柔軟に取り入れる姿勢も評価できる。書き方については、上期下期を通して、どの課題に対しての改善策がリンクして表記したほうがより分かりやすいと感じた。 ・長時間勤務の削減として、AIやDX等を活用して業務の効率化を図ってもらいたい。 ・結果の分析を踏まえた改善策がやや抽象的で、具体的方策が見えない箇所が見受けられる。 ・1学級の学年が増え、児童数が増えることで、担任の先生の負担や子ども一人一人と関わる時間の少なさが懸念される。 ・きめ細かく分析された結果を受けて、課題解決のために様々な角度から工夫された改善策が具体的に示されている。その改善策が小中共通の学校教育目標達成に向けて、小学校での学びが中学校での学びのしっかりとした礎になることを期待する。防災教育において児童の様々な場面で対処できるよう、保護者・地域と一層の連携を望む。また、新年度を迎えるにあたりこの改善策が新体制でも共有され、円滑な学校経営がなされるようお願いしたい。 ・今後の改善策は焦点を絞り、夫々適切な案が示されている。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・運動会や発表会等の中学校との合同での開催はできないだろうか。 ・児童のことを考えてくれているので、良いと思う。 ・すべての項目で、設定・分析において細部まで配慮ができていていると思う。 ・希望する委員に対しては、様式4号をデータで頂きたい。 ・今年度は、仁方中学校区教育研究会及び県小学校家庭科教育研究大会の開催もあり、大変お疲れさまでした。折に触れ、授業参観や仁方の行事、仁方フェスなどで子どもたちの頑張る姿や明るい笑顔を拝見でき、私自身も大変多くの勇気をいただけ感謝しております。来年度以降も仁方っ子の育成をよろしく願いいたします。 ・入学後間もない児童のフォローについて、中学校保護者でも募ってみようと思う。 ・校長の秀抜な行動力と指導力により、教職員が一体となって、学校教育目標達成を目指して教育活動が展開され、着実にその成果があらわれていると感じている。 ・一定の時間外勤務はやむを得ないと思うので、時間外勤務の標準化・平準化の一層の推進により、高い業務改善効果が表れるようをお願いしたい。 ・校長先生・教頭先生を始め教職員の先生方には、児童に深い愛情を注いでいただいていることが、児童の姿や目の輝きを見ればよく分かる。感謝！感謝！です。これからも「仁方の子」をよろしく願いたい。 ・児童に「将来自分が親になったら自分の子にどんな子であってほしいか」アンケート形式で聞いてもらいたい。そこには自分の発見があるのではないかと思います。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生活をよりよくするために、自分の考えを深め、表現する授業づくりを通して、主体的に学び、思考力・判断力・表現力を身に付けた児童の育成を、今後も「チーム仁方小」で継続して取り組む。 ・児童や保護者、地域の実態を踏まえ、適切な指標を設定し、方策を練り、PDCAサイクルに取り組んでいく。 ・児童の実態や状況をチームで把握・共有しながら、今後も個の支援の充実を図り、楽しい学校づくりに努める。 ・仁方中学校区の学習スタイルの確立・共有に努め、子どもの学力を伸ばしていく。 ・主体的な異学年交流を継続して取り組み、社会のルールやマナーを身に付けたり、自己肯定感を高めたりできるようにする。 ・仁方小トレーニング、仁方小ストレッチなどの取組を充実させ、体力づくり・健康づくりに努めていく。 ・今後も、教職員同士の連携を大切に、効率的な職場環境の創造を行っていく。
--------------------	--